

金沢市近郊 私立大学等の特色化推進プラットフォーム

令和元年度 事業報告書

令和2年10月7日

■目次

1. 金沢市 近郊私立大学等の特色化推進プラットフォームの全体概要	1
2. 令和元年度の事業計画と目標値および実績	2
3. 令和元年度 事業実績	
(1) 全体	4
(2) ワーキンググループ別事業報告	
①共同 PBL 運営検討 WG	6
②単位互換検討 WG	7
③専門連携・産学連携研究促進 WG	8
④入学者促進 WG	9
⑤小中校・一般・企業向け学習支援 WG	10
⑥地元就職促進 WG	12
⑦リスクマネジメント検討 WG	13
⑧共同 FD/SD 事業 WG	14
⑨共同 IR 事業 WG	15
4. IR データ（抜粋）	16
5. 自己評価と達成目標・実績	17
■参加大学等	20
■協力自治体	20
■協力産業界	20

1. 金沢市 近郊私立大学等の特色化推進プラットフォームの全体概要

金沢市近郊 私立大学等の特色化推進プラットフォーム

(2019.9.30現在)

PFの特徴

金沢医科大学・金沢学院大学・金沢工業大学・金沢星稜大学・北陸学院大学・北陸大学・金沢短期大学・金沢女子短期大学・金城大学短期大学部・北陸学院短期大学部・金城大学短期大学部・国際高等専門学校 (自治体) 金沢市・白山市・野々市市・内灘町 (産業界) 金沢商工会議所・白山商工会議所・野々市商工会・一般財団法人北陸産業活性化センター

現状・課題

- 大学等の課題**
 - 18歳人口減少に伴う入学者数の確保
 - 多分野集結の学園都市「学都金沢」の優位性の活用
 - 大学コンソーシアム石川内の私大としての多様性・独自性の発揮
- 地域の課題**
 - 石川中央都市圏 (金沢市・白山市・野々市市・内灘町・かほく市・津幡町) の活性化
 - 自然・教育・伝統文化・街並み・福祉充実・少子高齢化・人口流出・社会インフラの老朽化・交通ネットワーク・伝統文化産業の後継者の育成

協働体制

ワーキンググループ

名称	参加校
特別・産学WG	★金城大・金城短大・金沢工大・国際高等
山田T1/T2産学WG	★金城大・金城短大・金沢工大・国際高等
単科大学WG	★金沢工大・金城大・金城短大・金沢学師大・金沢学短大・北陸学院大・北陸学短大・北陸学師短大・北陸学師短大・北陸学短大・金沢学師大・金沢学短大・金沢学師大・北陸学院大・北陸学短大・北陸学師短大・北陸学師短大
学術WG	★金沢医科大・金沢工大
中野T1/T2産学WG	★特科校 (金沢工大) + 金大等
山田T1/T2産学WG	★特科校 (金沢工大) + 金大等

「学都金沢」ブランドの確立

- 定員充足率 100%
- 公認講座受講生 5倍
- 入学者定員充足率 100%
- 奨励・共同・取成研究受納数 120%
- リスコムマネジメント対項目 40件
- ブランドランキング 1位

質の高い特色ある教育の実施

地域・産業の活性化

住みやすさ日本一の圏域

主な取り組み事例

地域の課題解決を目指した共同PBL授業運営 (計画中)

自治体が抱える課題を共有し、各大学等・共同授業によるPBL活動を通じて課題解決授業を行う。授業発表後は研究や課外にて実践活動を行う。

IoT/ICTを活用した遠隔授業による単位互換の整備 (計画中)

テレビ会議・VR・アバターなど、IoT/ICTを活用した遠隔授業を行い、所属大学等に居ながらリアルタイムに他大学の多分野の学習できる環境を整備。夏季や春季の長期休業期間を利用した集中講義科目開講から共同運営を検討。

国際教養課程 (仮) による共通授業・単位修得制度 (計画中)

各大学等の教養科目の一部を共有したり、単位互換/単位認定を行うことで、学びの幅を広げ、多様な知識を有する人材を育成する。

2. 令和元（2019）年度の事業計画と目標値および実績

全国 18 歳人口*	117 万人				
石川県 18 歳人口*	11,062 人				
取組内容	2019 年度 活動計画	活動指標	2019 年度 目標値 ※比は 2018 年度比	2019 年度 実績	担当WG
①教育の質向上に向けた各大学の資源の共有化ならびに集中に関すること	・共同型 PBL 運営のための大学間意見交換 ・単位互換のための情報収集	1 協定校(大学・短大・高専・大学院) <u>定員平均充足率</u> [在籍者数/収容定員数]	1.00 (2020.5.1)	0.98	共同 PBL 検討 WG
		2 協定校(大学・短大・高専・大学院) <u>年間除籍・退学者数の合計</u>	552 人 (98%) (2020.3.31)	511 人	単位互換 検討 WG
②類似または異なる専門分野の連携による新たな価値創造に関すること	・大学間連携・企業・自治体マッチングのための基盤整備 ・社会実装型研究活動の推進	3 地元企業と協定校による <u>受託・共同・助成の年間合計契約数</u>	76 件 (102%) (2020.3.31)	108 件	専門連携・産学連携 検討 WG
③「学都金沢」ブランドを発信し、石川県内への進学促進に関すること	・大学間連携体制の構築 ・大学コンソーシアム石川と連携した広報活動実践 ・共有 HP の公開・情報更新	4 協定校(大学・短大・高専・大学院) <u>年間受験者数(のべ)の合計</u>	25,403 人 (102%) (2020.3.31)	28,305 人	入学者 促進 WG
		5 協定校(大学・短大・高専) <u>県内・県外年間入学者数の割合</u>	県内: 県外 = 50:50 (2020.3.31)	49.1:50.9	
		6 協定校(大学・短大・高専) <u>入学募集定員平均充足率</u> [入学者数/募集定員]	1.00 (2020.5.1)	1.04	
④企業・地域住民の主体的な学びを可能とする、多様な学習機会の創出に関すること	・対象別の各大学の提供科目、公開講座等の調査 ・告知、募集に関する企画	7 <u>複数の協力校</u> (大学・短大・高専)による <u>小中高校生向けの公開講座等の年間開講件数</u> ※共通設問 26 に準ずる	1 件 (2020.3.31)	0 件	小中校・一般・企業向け学習 支援 WG
		8 <u>複数の協力校</u> (大学・短大・高専)による <u>社会人科目等履修生登録および公開講座受講年間のべ人数</u> ※共通設問 27・28 に準ずる	科目等履修生 51 人 開講座受講者 3,848 人 (120%) (2020.3.31)	科目等履修生 51 人 開講座受講者 3,664 人	
⑤地元企業の人材確保に関すること	・産業界との意見交換・連携体制の構築 ・産業界のニーズ調査	9 協定校(大学・短大・高専)の卒業生に対する <u>地元就職者の割合</u> [石川県内就職者数/卒業者数]	40%以上 (2020.3.31)	42.8%	地元就職 促進 WG
⑥リスクマネジメントに関すること	・石川中央都市圏との連携体制の構築	10 リスクマネジメントにおけるリスク対応項目数(累積)	2 個 (2020.3.31)	1 個	リスクマネジメント 検討 WG
⑦共同 FD/SD に関すること	・教育・研究・サービス等の情報の共有化	11 共同 FD/SD 年間開催回数	2 回 (2020.3.31)	4 回	共同 FD/SD 事業 WG
⑧共同 IR に関すること	・各大学の基本データの共有と分析	12 共同 IR によるファクトブックの年間報告回数	1 回 (2020.3.31)	1 回	共同 IR 事業 WG

(ワーキンググループ担当一覧)

検討・運営WG	担当校 (★は取りまとめ校)
共同PBL運営検討WG	★金城大・短大、金沢工大、国際高専
単位互換検討WG	★金沢工大、金城大・短大、国際高専
専門連携・産学連携研究促進WG	★星稜大・短大、金沢学院大・短大
入学者促進WG	★北陸学院大・短大、北陸大、金沢医科大
小中高・一般・企業向け学習支援WG	★北陸大、北陸学院大・短大、金沢医科大
地元就職促進WG	★金沢学院大・短大、星稜大・短大
リスクマネジメント検討WG	★金沢医科大、金沢工大
共同FD／SD 事業WG	★幹事校（金沢工大）、全大学等
共同IR事業WG	★幹事校（金沢工大）、全大学等

3. 令和元年度 事業実績
(1) 全体

取組内容	全体	ワーキンググループ								
		①教育の質向上に向けた各大学等の資源の共有化ならびに集中に関する事	②類似または異なる専門分野の連携による新たな価値創造に関する事	③「学都金沢」ブランドを発信し、石川県内への進学促進に関する事	④企業・地域住民の主体的な学びを可能とする、多様な学習機会の創出に小中校・一般・企業向け学習支援WG	⑤地元企業の人材確保に関する事	⑥リスクマネジメントに関する事	⑦共同FD/SDに関する事	⑧共同IRに関する事	
WG	—	共同PBL運営検討WG	単位互換検討WG	専門連携・産学連携研究促進WG	入学促進WG	北陸大	地元就職促進WG	リスクマネジメント検討WG	共同FD/SD事業WG	共同IR事業WG
取りまとめ校	幹事校（金沢工業大学）	★金城大・短大	★金沢工大	★星稜大・短大	★北陸学院大・短大	★北陸大	★金沢学院大・短大	★金沢医科大	★幹事校（金沢工大）	★幹事校（金沢工大）
担当	意思決定委員会・運営委員会 ・企画調整委員会	金沢工大、国際高専	金城大・短大、国際高専	金沢学院大・短大	北陸大、金沢医科大	北陸学院大・短大、金沢医科大	星稜大・短大	金沢工大	全大学等	全大学等
4月	・第7回事務局会議[第1回 運営委員会] (大学等・自治体・産業界 代表者)									
5月										
6月										・学事運営スケジュール調査 ・学部卒業生数・就職内定数等の調査
7月	・第8回事務局会議[企画調整委員会] (大学等 担当者)									
8月										
9月	上 ・第9回事務局会議[企画調整委員会] (大学等 担当者)									・第1回FD研修 (@北陸大) ・第2回SD研修 (@金沢工大)
	中									
	下 ・第1回意思決定会議 (大学等・自治体・産業界 代表者) ・12大学等 私大等PF連携協定締結 ・私大等PFホームページ開設	・担当校間の打合せ(目的・課題の 確認)								
10月	上		・担当校間の打合せ(目的・課題の 確認)			・(コンソ)石川県高大連携セミナー 事業				
	中 ・第10回企画調整委員会(大学担当者)									
	下 ・令和元年度私立大学改革総合支援事業 (タイプ3) 申請									
11月	上									
	中									
	下 ・第11回企画調整委員会(大学等 担当者) ・石川中央都市圏大学連携推進連絡会 参 加							・第1回就職支援プログラム ・第2回就職支援プログラム	・自治体との協議	・第3回FD研修 (@金沢工大)
12月	上			・担当校間の打合せ			・担当校間の打ち合わせ	・担当校間の打ち合わせ		・第4回FD研修 (@金沢医科大)
	中						・第1回 リカレント教育プログラム			
	下 ・第2回運営委員会 (大学等・自治体・産業界 担当者)		・提供科目の抽出			・IRデータ分析			・自治体との協議	
1月	上									
	中						・第2回 リカレント教育プログラム	・第3回就職支援プログラム		・除籍・退学者数、共同研究、入 試結果、科目等履修生、公開講 座等の調査
	下 ・PBL授業実態調査アンケート ・アンケート集計、分析			・研究、産学連携実態調査アン ケート			・公開講座等の実態調査アン ケート	・第4回就職支援プログラム	・担当校間の打合せ	
2月	上								・防災に関する実態調査アンケート	
	中								・アンケート分析(危機的事象の分 類表の作成)	・IRデータ集のまとめ
	下 ・第2回意思決定委員会 (大学等・自治体・産業界 代表者)	・自治体、産業界への協力依頼 (予定)		・アンケート集計、分析(予定) ・担当校間の打合せ(予定)			・第3回 リカレント教育プログラム (予定)		・自治体との協議	
3月	上		・単位互換手続きの確認(予定)				・アンケート集計、分析(予定) ・第4回 リカレント教育プログラム (予定)	・第5回就職支援プログラム (予定)		
	中									
	下 ・令和元年度 私大等PFシンポジウム(予定) ・第12回企画調整委員会(予定) ・第3回運営委員会(予定)						・第5回 リカレント教育プログラム (予定)			
活動評価 (自己点検)		C	B	C	B	C	C	A	A	A

新型コロナウイルス感染拡大に伴う活動自粛

【S】当初の計画を超え、目標を上回る顕著な成果が得られている。 【A】当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる。 【B】当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。 【C】当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である。 【D】当初の計画を大幅に下回っており、目標の達成見込みがないため、計画に関する抜本的な見直しが必要である。

(2) ワーキンググループ別事業報告

① 共同PBL運営検討WG 事業報告

金城大学・金城大学短期大学部
金沢工業大学・国際高等専門学校

1. これまでの活動内容と課題

令和元年9月～12月に担当校間で打ち合わせを行い、以下のような内容の確認と課題を把握した。

(1) 共同PBLの目的

- ・プラットフォームを構成する各大学等が有する多種多様な専門領域を活用して、自治体等が目標とする「住みやすさ」にかかるPBL授業を設定すること。
- ・専門領域を異にする他大学の学生と同一テーマで共同して授業を行うことにより、相互に刺激しあい、新しい発見、価値を見出すこと。

(2) 共同PBLにおける課題

- ① 自治体、産業界等との具体的な連携方法が不明確である。
- ② 自治体、産業界等の各大学等の専門分野に対する理解が十分ではない。
- ③ 同一の授業で行う場合、単位互換と同様に、物理的な距離による学生の移動経費と移動時間の確保が必要になる。
- ④ 教務的な科目の位置づけが、明確ではない。

2. 令和元年度 事業実績

(1) 各大学等が現在実施しているPBL授業のアンケート調査

令和2年1月27日を締切りとして、各大学等が現在どのようなPBL授業を実施しているかを把握するためにアンケート調査を行った。各大学等もかなりのPBL授業を行っているが、共同でこの授業を開講しようとした場合、深く専門分野に入った科目は共同することは不可能であり、対象となる科目は絞られる。したがって、教養科目のレベルで設定することが妥当である。また、現在の科目をそのままに実施することも可能であるが、担当教員、教務間のすり合わせは十分行う必要がある。

(2) 自治体、産業界へのPBL授業の説明と協力依頼

2月に説明、協力依頼を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症のため、訪問することができなかった。令和2年度に行う。

3. 事業評価（自己評価）

評価:C（当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である）

理由:令和元年度の計画であったアンケート調査は行うことができたが、自治体等との意見交換ができなかった。本PBL授業については、自治体等の提案、意見が重要な位置を占める。令和2年度は自治体等の具体的な提案をしていただけるよう準備を行いたい。

以上

② 単位互換検討WG 事業報告

金沢工業大学・国際高等専門学校

金城大学・金城大学短期大学部

1. これまでの活動内容と課題

令和元年9月～12月に担当校間で打ち合わせを行い、以下のような内容の確認と課題を把握した。

(1) 単位互換の目的

- ・複数大学の特色ある教育を各大学で共有し、学生にとって魅力的な学習環境を構築
- ・教育資源の集中、共有、特色ある教育のブランド化による各大学経営の発展

(2) 単位互換における課題

- ① 物理的な距離による学生の移動に伴う経費と移動時間の確保
- ② 各大学の授業時間割の調整
- ③ 学生が学びたいと思うカリキュラム内容と各専門教育とのマッチング
- ④ 受入側の教室、実験室等の定員
- ⑤ 授業担当者の理解(他大学学生を受け入れるメリット・デメリット)
- ⑥ 授業料、実験・実習に係る実費

※これらについては、大学コンソーシアム石川でも同じ課題をもっている

2. 令和元年度 事業実績

○集中講義におけるモデル授業の実施

令和2年度の夏季休業期間に、金城大学と金沢工業大学間で以下の科目を単位互換のモデル科目として選定し、単位互換に向けた実質的な手続きについて検討を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、相互に受入が困難となり、一旦保留とした。

(金沢工大からの提供科目)

- ・「AI基礎」(数理基礎教育課程・全学部共通・必修科目)【案】

1年次対象 夏期集中講義(8月頃)1単位[講義・演習] 100分×7コマ

AIの基本的機能や機械学習(深層学習)の働きやの初等的理論や画像データ認識・自然言語処理・対話型音声識別について学ぶ。

(金城大学短期大学部から提供科目)

- ・「保育教材演習」(幼児教育学科・専門科目)【案】

1年次対象 夏期集中講義(8月～9月頃)1単位[演習] 90分×15コマ

絵本や紙芝居などの作品は幼児の感情醸成を促す。パネルシアターを通して、作品の教材を作ったり、演じることから、表現の基礎を学ぶ。

3. 事業評価(自己評価)

評価:B(当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。)

理由:単位互換の実施に向けて具体的な科目が選定された。しかし新型コロナウイルス感染拡大に伴い、具体的な事務手続きについてまで検討を進めることができなかった。次年度は新型コロナウイルスの影響がどのようにでるか、状況を見ながら検討をすすめていくことが必要である。

以上

③ 専門連携・産学連携研究促進WG 事業報告

金沢星稜大学・金沢学院大学

<主な事業>

- ・ 高等教育機関の共同研究事業の把握

<事業報告>

- ・ 12月 4日 (水) 金沢星稜大学関係者打合せ (金沢星稜大)
- ・ 12月 16日 (月) 金沢星稜大学案をもとに金沢学院大学[副]と打合せ(金沢学院大)
- ・ 12月 19日 (木) P F 主管である金沢工業大学に事業計画を提出
- ・ 12月 23日 (月) WG 報告会 (金沢市役所)
- ・ 1月 6日 (月) 8 高等教育機関にアンケート発送、〆切り 1/20
→ 7 高等教育機関より回答受領済み **【事業評価 B】**
- ・ 2月最終週 アンケート集計結果をもとに金沢星稜大学にて WG 開催
2020 年度の事業計画検討作成
→ コロナ感染拡大により未実施 **【事業評価 C】**
- ・ 3月開催予定 意思決定会議 (学長会議) に事業報告

(事業評価 B : 当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる)

(事業評価 C : 当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である)

大 学

金沢医科大学、金沢学院大学、金沢学院短期大学、金沢工業大学、
金沢星稜大学、金沢星稜大学女子短期大学部、金城大学、金城大学短期大学部、
北陸学院大学、北陸学院大学短期大学部、北陸大学、国際高等専門学校

自治体

金沢市、白山市、野々市市、内灘町

産業界

金沢商工会議所、白山商工会議所、野々市商工会、
一般財団法人北陸産業活性化センター

④ 入学者促進WG 事業報告

北陸学院大学・北陸学院短期大学部
北陸大学・金沢医科大学

I 令和元（2019）年度 大学コンソーシアム石川での共同学生募集について

1 広報事業【自主事業】

「大学コンソーシアム石川概要」「石川県の大学ガイドブック 2019」などの広報誌を発行、広報活動の強化、HPの充実

2 石川県高大連携セミナー事業【自主事業】

石川県高大連携セミナー2019「各大学の特徴と2021年度新入試制度について」

令和元年10月4日（金）13:00～16:30 高等学校側51名（48校）、大学側25名

3 出張オープンキャンパス事業【自主事業】

北陸3県の高等学校及び石川県内の中学校へ出向き、模擬授業を実施

中学校・高等学校25校 3,863名：延べ77高等教育機関 派遣教員数137名

4 学都石川魅力発信推進事業【石川県補助金事業】

関東圏高校教員招聘：実施大学2校 招聘教員数17名

関東圏高校出身学生の出身校訪問：実施大学5校 訪問学生数17名

「学都石川」大学・短大合同進学説明会

【石川】令和元年7月15日（月・祝）金沢駅もてなしドーム地下広場 大学等13機関 来場者240名

【富山】令和元年5月27日（月）ボルファートとやま 大学等10機関 来場者58名

【福井】令和元年5月28日（火）フェニックス・プラザ 大学等9機関 来場者484名

※ 上記の大学数等には大学コンソーシアム石川に加盟する国立・公立大学数を含んでいる。

II 令和2（2020）年度 入試状況

	指標	2018 (H30) 年度終了時	2019 (R元) 年度終了時	2023 (R5) 年度 達成目標	達成目標数値 (人数)
4	協定校（大学・短大・高専）の 年間受験者数（のべ）の合計	24,904	28,305 (114%)	2018 (H30) 年度 の120%	29,885
5	協定校（大学・短大・高専）の 県内・県外年間入学者数の割合	5,085 県内：県外 =51.5：48.5 [2,618/2,467]	5,116 県内：県外 =49.1：50.9 [2,512/2,604]	県内：県外 =40：60	県内：県外 1,971：2,957 2,337：2,591
6	協定校（大学・短大・高専）の 入学募集定員平均充足率 [入学者数/募集定員]	1.03 [5,085/4,928]	1.04 [5,116/4,900]	1.00	1.00 [4,900/4,900]

III 令和元（2019）年度のWG自己評価及び事業報告

【事業評価】B（当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。）

（理由）令和元（2019）年度は、大学コンソーシアム石川での共同学生募集に取り組み、計画通り広報活動を行うことができた。本WGとしては、IRデータを基にして、具体的な達成目標を提示することができた。

（事業報告）本PFの目的である「質の高い特色ある教育の実施」「住みやすさ日本一の圏域」「地域・産業の活性化」に向けて、協定校各校の大学としての魅力や実力を増すことを前提としながらも、協定校全体で受験者数及び県外からの入学者の増加、募集定員の充足が、本PFの目的達成には欠かせないことである。このために、本WGでは、協定校全体での魅力発信のために、「学都金沢」のブランド（共同PBL運営検討WG）（単位互換検討WG）と共に、「住みやすさ日本一の圏域」（地元就職促進WG）「地域・産業の活性化」（専門連携・産業連携研究促進WG）（小中高・一般・企業向け学習支援WG）と併せて協力し合い魅力発信していく役割であると認識しており、各WGの事業計画に沿った取組みを進めていく。

なお、令和元（2019）年度は本PFのスタート年度であり、各WGが今後の事業計画を企画・立案の中、本WGにおいては、基礎的なIRデータを可視化するとともに、現状分析の高度化を図るためのデータの精選を検討し、令和2（2020）年度に向けた取組みをまとめるに至ったところである。

以上

⑤ 小中高・一般・企業向け学習支援WG 事業報告

北陸大学・金沢医科大学

北陸学院大学・北陸学院短期大学部

1. 各年度の事業計画及び活動指標と目標値

		2019年度	2020年度	2023年度	
企業・地域住民の主体的な学びを可能とする、多様な学習機会の創出に関すること		<ul style="list-style-type: none"> 対象別の各大学の提供科目、公開講座等の調査 告知、募集に関する企画 	<ul style="list-style-type: none"> 大学間連携事業の企画運営 	<ul style="list-style-type: none"> 小中高校生向けの公開講座等の年間開講数 →5件 社会人科目等履修生登録および公開講座受講年間のべ人数 →2018年度の500% 	
指標	2018年度終了時	2019年度達成目標値	2020年度達成目標値	2023年度達成目標値	
7	複数の協力校（大学・短大・高専）による小中高校生向けの公開講座等の年間開講件数 ※共通設問 26 に準ずる	1件	1件	2件	5件
		2019.3.31	2020.3.31	2021.3.31	2024.3.31
8	複数の協力校（大学・短大・高専）による社会人科目等履修生登録および公開講座受講年間のべ人数 ※共通設問 27・28 に準ずる	社会人科目等履修生登録42人 公開講座受講年間のべ数 119講座 3,207人	2018年度の120%	2018年度の150%	2018年度の500%
		2019.3.31	2020.3.31	2021.3.31	2024.3.31

2. 令和元年度 実施事業

(1) 複数の協力校（大学・短大・高専）による小中高校生向けの公開講座等の開講

⇒ 開講なし

(2) 社会人科目等履修生登録および公開講座受講年間のべ人数

2019年度 科目等履修生登録者数 51人 (121%)

2019年度 公開講座数と受講生数 144講座 3,664人 (114%)

(3) 社会人向けの共同リカレントプログラムの実施

⇒ 「石川県内の私立大学等による社会人のためのスキルアッププログラム 2019（企業編）」
テーマ；「大学を活用した新たな価値創出と組織活性化」

第1回：「Society5.0 社会の実現を目指した企業内におけるAI・IoT・ICTの活用と情報技術教育のススメ」

2019年12月11日（水） 15：00～17：00（しいのき迎賓館セミナーB） 65人参加

第2回：「インターンシップを活用した大学連携と組織活性化」

2020年1月16日（木） 14：00～15：30（しいのき迎賓館セミナーB） 60人参加

第3回：「教員・学生の活動と企業連携」

2020年2月28日（金） 15：00～16：30（金沢工業大学） **コロナウイルス拡大により中止**

第4回：「『履修証明プログラム』の活用について」

2020年3月4日（水） **コロナウイルス拡大により中止**

※その他、「分野を超えた連携による新たな価値創出（医療・福祉×工学）の取組」のプログラムを計画していたが、実施に至らなかった。

3. ワーキンググループの自己点検

2019年12月3日 第1回ワーキンググループ

加盟校で現在実施している公開講座、提供可能な科目等の調査及び令和2年度に向けた活動を行うことを確認。

2020年1月6日 小中高・一般・企業向け学習支援WGより各加盟校への調査依頼（北陸大学）

1月31日 各加盟校からのデータ提供

3月 提供データの集計・取りまとめ（北陸大学）

4月～ 企画案立案、関連講座の告知・募集に関する企画提案（未実施）

(事業評価) C (当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である)

(理由) 本ワーキンググループの活動指標と目標値の達成状況について、複数の協力校による小中高生向け講座を実施することができなかった。公開講座受講年間のべ人数については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり目標達成に至らなかった。また、社会人向けに企画した共同リカレントプログラムについては、新型コロナウイルス感染症の影響により、第3回、第4回が中止となった。

以上

⑥ 地元就職促進WG 事業報告

金沢学院大学・金沢星稜大学

(事業内容)

地元への就職率を上げるための方策を考える。

現状の把握 (直近2カ年の地元就職率・地元就職促進のための取組事例)

(2019年度の活動および予定)

12月16日 ・今後の活動方針について、WG内での打ち合わせ

於：金沢学院大学1号館会議室2

12月20日 ・学内においてアンケート内容の打ち合わせ

1月31日 ・各大学等を対象とした、2020年4月実施予定のアンケート用紙の作成

3月中 ・就職者数の確定に伴いアンケート配信準備

(新型コロナウイルスの感染拡大により未実施)

(事業評価)

【事業評価：C (当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である)】

活動実績がほとんどない状況で新型コロナウイルスの感染拡大があり、アンケートを含めた事業が中断したため

【協定大学】

金沢医科大学、金沢学院大学、金沢学院短期大学、金沢工業大学、
金沢星稜大学、金沢星稜大学女子短期大学部、金城大学、金城大学短期大学部、
北陸学院大学、北陸学院大学短期大学部、北陸大学、国際高等専門学校

【産業界】

金沢商工会議所、白山商工会議所、野々市商工会、一般財団法人北陸産業活性化センター

⑦ リスクマネジメント検討WG 事業報告

金沢医科大学・金沢工業大学

1. 令和元年度の事業実績

本 PF 中長期計画(2019 年度～2023 年度)に則り、「石川中央都市圏ビジョン(改訂版)」における災害対策について、石川中央都市圏と本 PF 連携校との具体的な連携を図るため、連携体制の構築として以下の項目を実施した。

● 自治体との協議 : 3 回

- ◇ 令和元年 11 月 26 日 : 石川中央都市圏大学連携推進連絡会にて、本 PF の基本情報及び主な取組内容について紹介した。また今後、石川中央都市圏および各自治体との連携強化を目指し、協力依頼をした。
- ◇ 令和元年 12 月 23 日 : 第 2 回私大等 PF 運営委員会にて、本 WG の活動目的及び今年度活動内容について共有し、各自治体との具体的連携への端緒とした。
- ◇ 令和 2 年 02 月 20 日 : 第 2 回私大等 PF 意思決定委員会にて、各地域 (3 市 1 町) にて考えられる「危機的事象の分類表」等について情報共有を行った。

● WG による会議 : 1 回

- ◇ 令和 2 年 01 月 24 日 : 担当校にて、各地域 (3 市 1 町) にて考えられる<危機的事象の抽出と分類>について原案作成を行い、各連携校に対し確認依頼するとともに、大学の特性を活かしたリスクマネジメントについて整理を行い、今後共有したい先行事例等は何かに
ついて照会した。

● 成果物 : 1 個

- ◇ WG による原案作成および各連携校への照会により、「危機的事象の分類表」の作成を行った。ただし、今後、追加修正や項目移動等の整理が予定される。

2. 令和元年度のワーキンググループの自己点検

(事業評価)

A : 当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる

(理由)

私大等 PF 運営委員会等を通じて、各自治体との具体的連携への端緒を開いたことは評価できる。また、具体的連携の足掛かりとなる「危機的事象の分類表」が出来たことで、具体的連携に向けた論点の明確化が行いやすくなったことは評価できる。

ただし、共同防災訓練等の具体的連携へのロードマップとしては解決すべき課題が多岐にわたることに加え、このコロナ禍を考慮すると、次年度以降の進捗については、共同防災訓練等の企画・運営だけでなく、その予備段階である先行事例校への見学等にも支障を来す懸念があり、状況に応じて見直しの必要がある。

以上

⑧ 共同FD/SD 事業WG 事業報告

金沢工業大学・全大学等

1. 共同FD/SD 事業の目的

- 各大学等の教育目標、教育方法を相互に理解、尊重しあいながら、各大学の特色ある教育の発展に向けて、教職員の研修会を行う。
- 各大学が有する特色ある資源の共有と業務の効率化について検討・推進できる教職員研修会を行う。

2023 年度目標値 共同FD/SD の開催 12 回/年

2. 令和元年度 事業指標と目標

共同FD/SD 事業 年間開催回数 2 回

3. 令和元年度の事業実績

回	日にち	区分	テーマ	場所	人数
1	9月11日	SD	障がい学生の社会移行を考える～修学支援から就労支援への展開～	北陸大学	10 +北陸大教職員
2	9月12日	SD	教育支援環境について	金沢工業大学	12
3	11月21日	FD	Society5.0の実現を目指した金沢工業の魅力的な教育実践について	金沢工業大学	3 +金工大教職員
4	12月5日	FD	知的財産セミナー	金沢医科大学	10 +医科大教職員



4. 事業評価（自己評価）

評価：A（当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる）

理由：計画していた研修回を上回る事業を開催することができた。ただし、参加人数においては、他大学（特にPF校以外）からの参加が多いとは言えないため、今後の課題とする。

⑨ 共同 IR 事業WG 事業報告

金沢工業大学・全大学等

1. 共同 IR 事業の目的

私大等 PF の事業(質の高い教育環境・住みやすさ日本一の圏域・学都金沢)の推進を図るために必要な各大学の情報を共有するとともに、IR 活動から見える事業改善に必要な提案行う。

2023 年度目標 ファクトブック報告回数 1 回以上/年

2. 令和元年度 事業指標と目標

ファクトブック報告回数 1 回以上/年

3. 令和元年度 事業実績

年度目標 各大学のデータの共有と分析

- (1) 6 月 学事運営スケジュール調査(学年暦・時間割)
- (2) 6 月 2018 年度の学部卒業者数・就職内定数等の調査
- (3) 9 月 2019 年度在籍者数、入学者数の調査
- (4) 9 月 IR データ集を作成(意思決定委員会にて公開)
- (5) 1 月 2018 年度除籍・退学者数、共同研究、入試結果、科目等履修生、公開講座等の調査
- (6) 2 月 2019 年度調査結果の IR データ集のまとめ(データ集の作成)

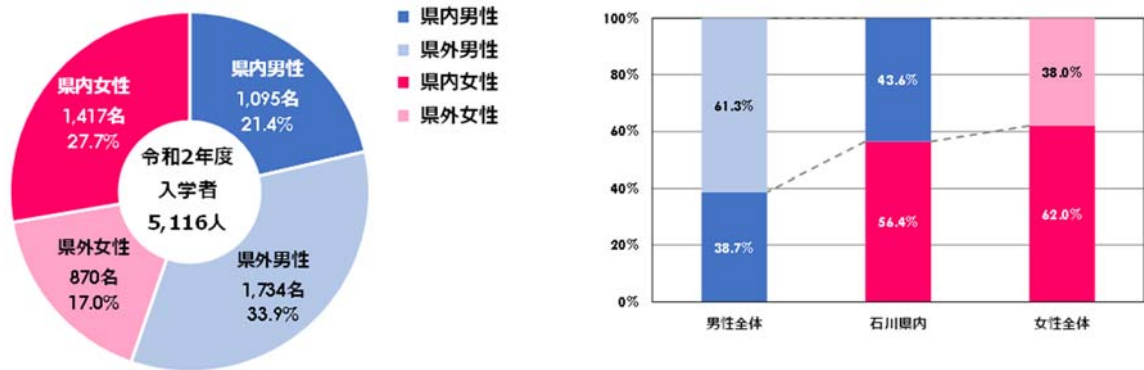
4. 事業評価(自己評価)

評価:A(当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる)

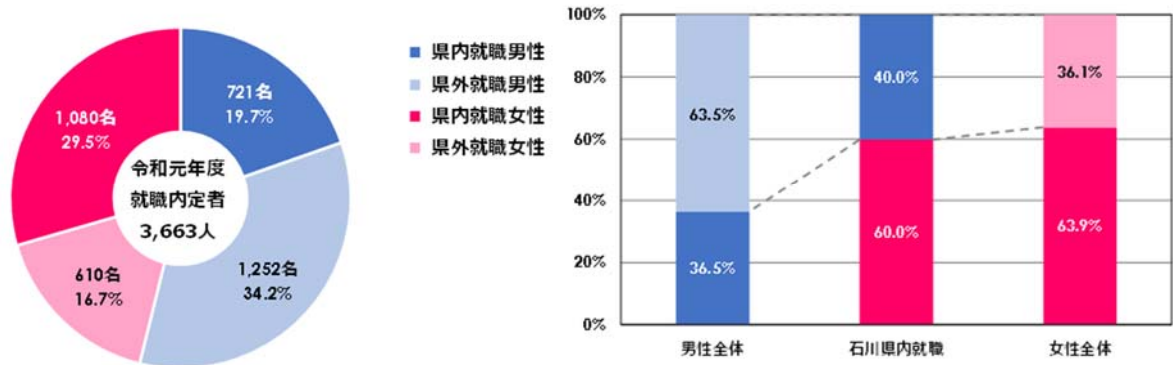
理由:IRを充実していくための基盤となる「基本情報データ集」を作成することができた。今後は他の指標も含め、私大等 PF ならびに各大学の状況について情報公開についても検討していく必要がある。

4. IR データ（抜粋）

（1）入学者状況（2020年度入学者数：令和2年5月1日時点）



（2）就職状況（2019年度終了時：令和2年3月31日時点）



（3）その他（私大等 PF 協力校の合計：令和2年3月31日時点）

項目	2019年度実績
1 受託・共同・助成契約数（対象：石川中央都市圏内）	108件
2 2020年度入試 受験者数（のべ）	28,305人
3 科目等履修生登録者数（学部卒以上・その他）	78人（51人・27人）
4 公開講座受講者数（のべ）	3,664人

5. 自己評価と達成目標・実績

■中長期計画に対する自己評価

全体評価

B

S：当初の計画を超え、目標を上回る顕著な成果が得られている。

A：当初の計画を着実に実行できており、目標に対し十分な成果が期待できる。

B：当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。

C：当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である。

D：当初の計画を大幅に下回っており、目標の達成見込みがないため、計画に関する抜本的な見直しが必要である。

評価理由

2019年（令和元年）9月に連携協定を締結し、2023年度（令和5年度）を目標とした中長期計画と年度毎のマイルストーンを策定した。この計画の達成に向け、各々の取り組み内容を推進するために9つのワーキンググループを構築し、各大学等が協力し、この中長期計画の初年度の推進を図った。各ワーキンググループでは、今後の事業推進のためにまず現状を正しく認識し、課題設定と共有を行った。また、一部のワーキンググループでは新たな価値が期待できる連携事業の計画・実践をすることができた。

しかし、自治体や産業界との連携については具体性が十分ではないため、今後は意見交換を踏まえて、地域への貢献・実績が得られる連携した事業を推進することが望まれる。各大学等の魅力・特色を活かしながら、本PFが率先して地域を盛り上げ、目標達成に向けた継続した努力が必要である。

評価に関する備考（考慮すべき事項）

2019年（令和元年）9月に連携協定を締結し、プラットフォームとして始動した。計画に基づき、大学間・自治体・産業界との連携についての協議、打ち合わせを行っている状況の中、年度終盤で新型コロナウイルスが国内で感染拡大し、各大学等がキャンパスを一時閉鎖するなどの措置を行ったため、年度末の事業ならびに2020年度（令和2年度）の事業計画や調整等が一時中断せざるを得ない状況となった。

2020年度（令和2年度）においては、各大学等では年度初めから新型コロナウイルス感染拡大予防による遠隔授業等の緊急的学事運営対応に追われ、プラットフォームの推進ができなかった。緊急事態宣言が解除され、2020年（令和2年）7月よりプラットフォームの活動を再開し、2019年度（令和元年度）の事業まとめや2020年度（令和2年度）の事業計画を始めたため、全体的な遅れを生じている。

■達成目標・活動指標等

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
<p>● 18歳人口減少による入学定員の確保</p> <p>● 多分野集結の学園都市「学都金沢」の優位性の活用</p> <p>● 大学コンソーシアム石川の中の私大の多様性・独自性の発揮</p> <p>● 特定地域の活性化</p> <p>● 専門性を活かした地域課題の解決への貢献</p>	<p>達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定員充足率 1.00 ・ 各大学の資源の共有化ならびに集中による「国際教養課程」の設立準備および試行 ・ 産学官金民一体となった推進（石川中央都市圏ビジョンの達成） ・ 石川中央都市圏の「住みやすさ」ランキングの向上 	<p>課題を解決する取組概要</p> <p>(取組1) 教育の質向上に向けた各大学等の資源の共有化ならびに集中すること</p> <p>(取組2) 類似または異なる専門分野の連携による新たな価値創造に関すること</p>	<p>活動指標</p> <p>(取組1の活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定員充足率 ・ 年間除籍・退学者数 <p>(取組2の活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元企業と大学等の受託、共同、助成契約数 <p>(取組3の活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受験者数 ・ 県内・県外の入学割合 ・ 募集定員充足率 <p>(取組4の活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中高校生向け公開講座 ・ 社会人科目等履修生登録者数および公開講座受講人数 	<p>実績</p> <p>(取組1の活動実績)</p> <p>【共同PBL運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PBL運営における課題の洗い出しや各大学等でのPBL授業運営調査を実施した。 ・ 2020年度（令和2年度）からの一部実施に向けて自治体との意見交換がコロナにより一時中断せざるを得ない状況となったため、令和2年度の実施に向けた準備が遅れた。 <p>【単位互換運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単位互換の課題について洗い出しを行った。 ・ 単位互換モデル対象校から1科目ずつ提供科目を選出することができた。 ・ 2020年度（令和2年度）の実施に向けた具体的な手続きについて、コロナの影響により調整に遅れが生じた。 	<p>B</p>
<p>● 特定地域の活性化</p> <p>● 専門性を活かした地域課題の解決への貢献</p>	<p>達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 石川中央都市圏の「住みやすさ」ランキングの向上 	<p>課題を解決する取組概要</p> <p>(取組2) 類似または異なる専門分野の連携による新たな価値創造に関すること</p>	<p>活動指標</p> <p>(取組2の活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元企業と大学等の受託、共同、助成契約数 	<p>実績</p> <p>(取組2の活動実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各大学における産学連携に関する実態調査を実施し、現状を把握した。 ・ 一部の大学間で進展があったものの、コロナの影響により具体的な連携内容までには至っていない。また、産業界・自治体とも具体的な話し合いまで進展していない。 	<p>C</p>
<p>● 特定地域の活性化</p> <p>● 専門性を活かした地域課題の解決への貢献</p>	<p>達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 石川中央都市圏の「住みやすさ」ランキングの向上 	<p>課題を解決する取組概要</p> <p>(取組3) 「学都金沢」ブランドを発信し、石川県内への進学促進に関すること</p>	<p>活動指標</p> <p>(取組3の活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受験者数 ・ 県内・県外の入学割合 ・ 募集定員充足率 	<p>実績</p> <p>(取組3の活動実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かつぶりの作成、出張オープンキャンパスによる合同学校説明を行い、高校生向けのPRを行うことができた。 ・ IRデータに基づき、具体的な目標値の提示を行った。 ・ コロナの影響により他のWGと連携した具体的な連携体制構築までには至っていない。 	<p>B</p>
<p>● 特定地域の活性化</p> <p>● 専門性を活かした地域課題の解決への貢献</p>	<p>達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 石川中央都市圏の「住みやすさ」ランキングの向上 	<p>課題を解決する取組概要</p> <p>(取組4) 企業・地域住民の主体的な学びを可能とする、多様な学習機会の創出に関すること</p>	<p>活動指標</p> <p>(取組4の活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中高校生向け公開講座 ・ 社会人科目等履修生登録者数および公開講座受講人数 	<p>実績</p> <p>(取組4の活動実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人向けのリカレント教育プログラムを2回実施することができた。しかし、コロナの影響により、残り3回分が実施できなかった。 ・ 小中高向けの共同講座開設を実施することが 	<p>C</p>

				できず、また公開講座の年間受講者数が目標に達しなかった。	
	(取組5) 地元企業の人材確保に関する事	(活動5の活動指標) ・地元就職率		(取組5の活動実績) ・各大学の就職支援状況を確認する調査を実施する予定であったができなかった。 ・就職支援セミナーを4回開催する事ができたが、コロナの影響により残り1回実施することができなかった。	C
	(取組6) リスクマネジメントに関する事	(活動6の活動指標) ・域内のリスク対応項目数		(取組6の活動実績) ・各大学等のリスクマネジメントに関する調査を実施し、危機的事業の分類表等をまとめることができた。	A
	(取組7) 共同FD/SDに関する事	・年間開催回数		(取組7の活動実績) ・FD研修を3回、SD研修を1回実施することができた。	A
	(取組8) 共同IRに関する事	・ブックレットの年間発行回数		(取組8の活動実績) ・各大学の基本情報(在籍者数・出身・除籍退学・受験者数・就職状況・産学連携・公開講座等)をまとめ、データ集として発行した。	A

■参加大学等一覧

大学等名	住所	担当部署
金沢医科大学	〒920-0265 石川県河北郡内灘町大学1丁目1番地	学事部 076-286-2211 (内線 2411)
金沢学院大学	〒920-1392 石川県金沢市末町10	財務部 076-229-8817
金沢学院短期大学	〒920-1392 石川県金沢市末町10	財務部 076-229-8817
金沢工業大学 (2019年度 幹事校)	〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7-1	共創教育推進室 076-294-6740
金沢星稜大学	〒920-8620 石川県金沢市御所町丑10番地1	事務局 076-253-3942
金沢星稜大学女子短期大学部	〒920-8620 石川県金沢市御所町丑10番地1	事務局 076-253-3942
金城大学	〒924-8511 石川県白山市笠間町1200	総務企画部 076-225-3442
金城大学短期大学部	〒924-8511 石川県白山市笠間町1200	総務企画部 076-225-3442
国際高等専門学校	〒921-8601 石川県金沢市久安2-270	事務局 076-248-1080
北陸学院大学	〒920-1396 石川県金沢市三小牛町イ11番地	総合政策課 076-280-3858
北陸学院大学短期大学部	〒920-1396 石川県金沢市三小牛町イ11番地	総合政策課 076-280-3858
北陸大学	〒920-1154 石川県金沢市太陽が丘1-1	産学官・地域連携推進部 076-229-1161

■協力自治体

自治体名	住所	担当部署
金沢市	〒920-0962 石川県金沢市広坂1-1-1	都市政策局企画調整課
白山市	〒924-8688 石川県白山市倉光二丁目1番地	企画振興部協働推進課
野々市市	〒921-8510 石川県野々市市三納1丁目1番地	企画振興部企画課
内灘町	〒920-0292 石川県河北郡内灘町字 大学1丁目2番地1	都市整備部企画課

■協力産業界

団体・企業名等	住所	会員数
金沢商工会議所	〒920-0918 石川県金沢市尾山町9番13号	756社
白山商工会議所	〒924-0871 石川県白山市西新町159-2	552社
野々市市商工会	〒921-8821 石川県野々市市白山町8-16	14社
一般財団法人北陸産業活性化センター	〒920-0981 石川県金沢市片町二丁目2番15号	40社